

平成31年第3回木島平村教育委員会定例会会議録

1 開催日時 平成31年3月27日(水) 14:30~15:50

2 場 所 木島平村役場 議員控室

3 出 席 教 育 長 小林 弘
教育長職務代理者 佐藤 秀雄
委 員 本山三智子
委 員 月岡 英彦
委 員 佐藤小百合

4 出席した事務局職員

子育て支援課長 山寄 真澄
生涯学習課長 高森 喜久
子育て支援係長 大口 晴男

1 開 会 午後2時30分

2 前回会議録朗読承認（署名）

平成31年2月20日開催の第2回木島平村教育委員会定例会会議録を山崎子育て支援課長が朗読し、出席委員全員が内容を確認のうえ、全員が承認し署名した。

3 教育長報告

(1) 3月6日開催の保育園定例会時に保育園長及び園長補佐に指示した事項、平成31年度に向けての提案（「英語であそぼ！」）、一般社団法人長野県保育園給食委員会報告書（おひさま保育園「豆と過ごした1年間」の報告に学ぶ）他について報告説明した。

(2) 4月17日開催の村校長園長会時に小中学校校長・保育園長等に指示した事項、年度末・年度初めに向けて（年度末事務処理等について、新年度に向けて他）、平成31年度「学校リフレッシュ・ウィーク」について、「副学籍制度」について他について報告説明した。

4 協 議

(1) 副学籍について

小林教育長

それでは、今の副学籍について縷々説明をいたしました。きっと皆さん既にご存知の方おられる訳ではありますが、ご意見をお聞きしたいなど、又、今後に向けての意見もお聞きして、又、木島平村教育委員会としてどうすれば良いか、できれば前向きに進めて行ければいいかなというふうな気持ちでおりますが、如何でしょうか。

小林教育長

どうぞ、本山委員さん。

本山委員

すみません。飯山養護に居る時に、やはり木島平村出身で小学校から飯山養護に入ったお子さんが居て、自分の母校中部小学校だったんですけど、そこと交流はしておりました。学籍云々はその時は全く無いのですけれど、その後今度、スキー場が全部の小中学生が無料となった時に、養護学校の子供が忘れられていて、ちょっと寂しい思いをしたというのが有ったので、全てこの

村出身の小中学校の年齢のお子さんは、兎に角スキー場に行くには無料で使えますよって声を掛けて貰いたかったというお母さんからの声を聞いたことを記憶しているので、その同じように福利厚生というか、子供達に同じ光が当たったり、恩恵があるように考えていくのが、学籍云々よりも、この村にいる子供だということで、どの学校に行っても同じっていうその精神が一番いいんじゃないかなと思いました。

小林教育長

はい。今言われたように、所謂交流ですね。これが一番根底に有るのですね。地域で一緒に生まれて、一緒に保育園まで育って来ている子供たちが、小学校に入る学齢に達しても、交流制度というか、そういう様な事も基本にしているという、そんなことであります。今の話、スキー場は、少し確認、無料のリフト券が行っているかということね。

本山委員

無料のリフト券の話が来てなくて、うちの子もソリだけでもやらせたかったのかということ。

小林教育長

はい。如何でしょうか。他に、どんなことでも。

佐藤職務代理者

今度、長野養護か、向こうに行きたい希望があったよね。入ることになっていると思うんで。

小林教育長

そうです。

佐藤職務代理者

そこら辺は。

小林教育長

これは、義務教育の小学部、中学部だけの副学籍制度なんですね。なので、義務教育を卒業した生徒はこの対象ではないと。

佐藤職務代理者

高等部になると、駄目なんだね。関係ないんだね。

小林教育長

関係ないというか、所謂対象がそこであると。いう制度。

佐藤職務代

原が無い。まあ要するに。

理者

小林教育長

何処へ、では、中学へ来て一緒に交流するかということになりますのでね。

佐藤職務代
理者

小林教育長

そうだね。そういうあれは無いんだね。

ですから。小中のみの、子供達に適用ということで一応それぞれの学校、40幾つでしたか。40幾つかの所はそういうふうにしていくようであります。他にどうでしょう。どんなことでも、今ここで導入するとかそういうことではなくて、また色々と皆様からご意見をお聞きしながら、何とか良い方向であればね。月岡委員さんどうでしょうか。

月岡委員

あれですよ。その副学籍というのは、一寸例えばで、比べるには少し問題あるかもしれないけれども、特に高齢者で村に居らっしゃらないで施設等に入られている方、居らっしゃるでしょう。ああいう方っていうのは、はっきり言って亡くなったとしても連絡は来ないし、何時亡くなったのか、何処で亡くなったのか全然知らないまま。だけど子供のこと考えれば、保育園の途中とか、例えば小学校の途中まで一緒に過ごしても、というのは何時になったって友達でいるんです。私も同級生には、そういう子が居りました。だから、何故卒業証書、あの子の名前が呼ばれないのかなと小学校、中学校でこんなこと思ったことがあります。母体学級というのは残してあげるべきだなと思います。

小林教育長

はい。佐藤委員さん如何でしょうか。

佐藤委員

そうですね。副学籍というのは交流があって、お互いに受け入れられるような、そういうものが有って、子供同士の活動で心の交流ではないのですけれど、温かいふれあいの様な事ができるんで有れば良いのではないかなと思います。

小林教育長

はい。これ当然ながら、やったからには小学校中学校はオープンですよって言っても、保護者とか子供たちが嫌だというそういう事であれば、強制するものでないからね。はい是非提案を一緒

に。音楽を楽しみたいとか又は運動会を、参加しなくても一寸見てみたいとかそんなこともあるかと思うのですね。今朝のNHKでも、車いすバスケット、健常者とそれから障害を持っている人も、これはもう車椅子に乗れば皆同じだと、健常者とかそういうことは一切無いというようなそういう事が有りまして、やはりこの地に生まれた子供たちはやっぱり同じ一人の存在、存在というと非常にあれですが、形でというのが、大きな目的で始まったのかなというふうに思います。13年前になりますよね。平成17年といいますとね。今後どうでしょうか木島平村でも是非こういう様な、例えば暫らくはね、交流をするという対象の子供達がいるかどうかというのは、一寸また把握はできませんが、保育園の年長の子供達、年中の子供達が小学校に入れなまま違う学校に行ったということになった時には。

本山委員

招待状のやり取りだけでも、お子さんを通して親御さんに伝わるので、飯山養護に例えば行ったら、そちらからも招待というか声を掛けてください、で、こちらの運動会も招待しましょうというような、やはりその文書のやり取りから始まって其々関わりが生まれればいいなと思います。中には我が家に泊まれたにも係わらず、保育園にも連れて来るなどというご両親の、お父さんの方が運動会なんか連れて来てはいけないという、家庭の中でそういう意識が有ったお家があって、子供を表沙汰にしたくないなんていうのを聞くと、すごいお母さんとしては悲しかったっていうことを聞くので、オープンにして、うちの子を、村の子供ですと言えるようにそういう村で有りたいし、そういう学校で有って欲しいなと思います。

小林教育長

今、これ、そういう制度が有りますよという周知はしていても、その所を最終的な判断をするのはそのご家庭ですからそこに強制的に行政、学校が踏み込んで行くっていう、これは全くやってはいけない事でもありますので、その所は十分に配慮というか考えて行かなければいけない事だと思います。また、それでは、副学籍については色々と今後の協議事項という中で、できれば今年度の中で、木島平村はどうするかという結論に達していければ良いかなというふうに思います。ありがとうございました。

(2) その他

- 小林教育長 その他につきましては、課長、こちらの方で用意したものを。
- 山寄課長 有りません。
- 小林教育長 いいですか。
- 山寄課長 はい。
- 小林教育長 それでは、私の方で用意したものを、急遽先ほど、どうですかと話をしていたところ、印刷をしますということでもあります。

○説 明

- 小林教育長 ○当日教育長配布資料「森と自然を活用した保育・幼児教育」に基づき説明

○質 疑

- 小林教育長 どんなことでも良いですから、ご質問なり、お聞きできればと思います。

- 本山委員 昨年だったと思うんですけど、おひさま保育園の保護者の方で、何か、一寸こう、何ていうのか、木工とかそういうの得意な方がある程度準備して、親子で挑戦するようなことを、親子レクの延長なのかそんな事もあって、いきなり保育士さんと子供だけで大自然の中に行くのは大変だから、やはり親御さんを捲き込んでこういう場所があるという紹介をしながら展開して行けば余りハードルが高くないし、そこへ観光の方とか、その専門の牛を飼

っている方のご協力が有ればできるかなと思うし、発達年齢が色々あるのでどの年齢の子に相応しいか、その辺も吟味しながら、少しずつのステップでいいんじゃないかなというふうに感じました。

小林教育長

はい。ありがとうございます。まあ、これ一気にここに行くっていう、あれじゃなくて、少しずつ、例えば今言われたようなものは園庭で、木を切ったりするという様な、所謂鋸を使って丸太を切る、そういう経験をする、又はその丸太を打って、一寸腰掛けるものを作るとかね、まあそんな様な事も、本当に初歩の初歩の段階から、という様な事ですね。

佐藤職務代理者

これはあれですか、県で推奨しているものなんですね。信州やまほいくっていうのは。

小林教育長

阿部知事が率先して立ち上げたものです。

佐藤職務代理者

県の。良く分からないのだけれども、あの保育園ていうのか、幼稚園ていうのか、その私立のものいっぱいありますよね。本当に何ていうか考え方にものすごい特徴が、全然別、色んなのがあるんですよ。だから自然というのも、徹底して自然になると、都会の方に有るらしいんですが、本当のこう所謂家の中で過ごす保育でなくて、もう子供達が自分達で遊びを考えてずっとその、色んな、何ていうか、木もあって、自然、小屋作るとか、何ていうのかな、本当に野生児みたいな感じですけど、そういう保育園も有れば、あの、全く別な、本当にこう規律正しくやる保育園もあるし、本当にバラエティーに富んでて、すごい、所謂その学校みたいに指導要綱があって、これであってないもので、非常にあの、その中心になるその考え方によってものすごく沢山の方向性というか、学ばせ方っていうか、育て方が有るんだなあと。いうことは色々な面で、経験も少し有るのだが、入って来る一年生が大体そういう保育をやって来た子供達ときちんとした様な所から来る子供と本当に分かりますので、全く整列なんて一回もしたことが無い子供を、私経験しましたので、凄かったです。だから、このやまほいくっていうのがどの程度のものを目指している

か分かりませんがね、あの今、今度あの保育園で、あれやるんではないですか、研究発表というか、保育研究大会、そういう中にこれ入って来るんですか。

小林教育長

これは、当然ね、では一寸、今後半のことですと、あの何ですかあそこ上の、トガリ山ではなくて、カヤの平、カヤの平に所謂、トガリ山っていう本を子供達に保育士が読んだら、トガリ山ってどういう所にあるのという疑問から是非行ってみたいと、そこでトガリ山ってというのは、あの何かその書いた人がカヤの平の方、そこに行った時に、それを一つのモチーフでやったという、じゃあ向こうにあるんだよということで、あの子供達が行ったんですよね。その前に私の所でトガリ山ってどこにあるのということで一寸話をしてくれということでね、40分ほど、私、本を借りて子供達に少し役場で話をしたんですが、そんな面でやはり自然の中に子供たちが行って、そこで所謂来て、居るっていうそういう様な事も、あの発表の中にきっと出てくると思うのですね。で、昨日の卒園式に緑の山が有りましたよね。あれは所謂トガリ山をきっとイメージしたものかなというふうに私は捉えたのですね。実際にトガリ山ってある訳でなくて、で、後もう一つの方は、こういう様な事で、がんじ搦めに知事が考えていることをやるのではなくて、自然にやっている所、例えば下から3行目、認可外保育施設森のようちえん、これは正に本当に今佐藤委員が言われた様に、もう本当に朝から遊び回って、あの何ですか、でっかいドラム缶の中でお風呂を沸かして入るだとかね。又は山へ、勉強とかそういうのはもう一寸こっちに置いておく、そんな様な事で、色んな保育園、保育園というか認可外の幼稚園を含めて、自然と接して、そして保育、子供達の心を育てて行くそういう様な所には、お金は無尽蔵にある訳でなくて500万円程度しか用意されてないようであります。5千万円かな。500万円程度の予定と書いてありますね。そんなことで有りまして、今年の10月に安曇野市、前に教育委員会で一寸私報告させてもらいましたけれども、行った時にも認可外保育の方、所謂代表者が一寸発表したりしておりました。北海道から、奈良県から色んな所から来て、で、又、12月になって東京で、やまほいくについて賛同する知事さん同士の会議があつて、日墓村長そこに出席したり、

後他の県から来て、そんな訳で自然の中で育てて行くという様なこと、ここにまあ読んでもらおうと分かるようなそのようなところ、ですね。

まあこのやまほいくの推進について、又、教育委員の皆さんからもね、もう認定は平成29年度になされておりますので、このようなアイデアでやったらどうだというような色んなご意見もまたお聞きして、有意義な教育ができればいいかなと考えております。

このやまほいくを中心になって阿部知事の考えを所謂具体化したってというのは、長野県の次世代サポート課次世代企画係っていうのかね、その所であります。そこにいた責任者の人が1月に池田町の教育長に転出をしております。ですから池田町も是非、その名前がすぐに出てこないんですが、まだ50歳か51歳位の方ですが、やはりこういう自然の中で進めて行きたいっていう、きっと教育長でなくて、池田町の町長のお考えで、是非うちに来て進めてくれという様な思惑があって、そういう異動があったのかななんていうふうにも、異動じゃなくてそこを、退職をしてそっちへ、ということで出向というかそういう形ではないんです。では又、色んな面でご意見を頂ければというふうに思います。

5 報 告

(1) 保育園及び小中学校の状況

山崎子育て支援課長が、資料1に基づき保育園及び小中学校の状況について報告した。

(2) 社会教育団体登録審査結果について

高森生涯学習課長が、社会教育団体登録審査結果について資料2により報告した。

(3) その他

小林教育長が、平成31年度教育委員会村費非常勤職員（嘱託・臨時・非常勤）について資料3により報告した。

6 その他

(1) 当面の日程（諸行事・会議等）

山寄子育て支援課長が、当面する諸行事・会議等について説明した。

山寄子育て支援課長が、平成31年第4回教育委員会定例会の開催日程について提案した。全委員が了承し、「平成31年第4回木島平村教育委員会定例会を平成31年4月24日（水）午後3時30分から」開催することに決定した。

山寄子育て支援課長が、教育委員会定例会平成31年度年間開催日程（修正案）について、平成31年度関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会（山梨大会）について、其々を資料4により説明した。

(2) その他（特になし）

7 閉 会 午後3時50分

小林教育長が閉会を宣した。